

# 人工林収穫予想表の調製(R6~R8年度)

## 現状

- 県内12万haの人工林は利用期を迎えており、間伐や主伐、再造林による森林資源の循環利用を計画的に進めるため、森林の現況把握と将来予測が必要。
- 森林吸収源対策（J-クレジット）において、森林の成長量が算定因子のひとつとなっており、「収穫表」がその基礎となっている。
- 福井県の収穫表が作成（昭和49年）されてから約50年が経過し、収穫表と現実林分の材積量等に乖離が生じている。

## 課題

- 現実林分に即した新たな「収穫予想表」の調製
- 航空レーザ計測データなどICT技術の活用による効率的な林分調査と収穫予想表の調製

## 研究内容

### ① 林分調査(R6-R8)

- ・航空レーザ計測データ等による効率的な調査地の抽出（県下全域、若齢林から高齢林まで偏りなく抽出）
- ・デジタル機器や地上レーザを活用した効率的かつ詳細な林分調査
- ・材質区分(A材、B材、C材)や獣害状況等の把握と森林情報への反映

### ② 収穫予想表の調製および収穫量推定手法の開発(R6-R8)

- ・林分調査データの蓄積、航空レーザや地上レーザデータとの比較、解析などにより収穫予想表を調製するとともに収穫量推定手法を開発



## 目標および期待される効果

- ★ デジタル機器や航空レーザ、地上レーザを活用した新たな人工林収穫予想表作成技術の確立
- ★ 森林経営計画の精度向上および森林施業の効率化（間伐の加速化、主伐、再造林の推進）
- ★ 森林資源の適正な把握、評価、管理（森林吸収源対策（J-クレジット）等での活用）